

作業学習 コミュニケーションチェックシート

活用にあたって

- 中学校知的障害特別支援学級での作業学習を想定しています。
授業づくりに当たり、参考としてみてください。
- 就業に必要な一般的なコミュニケーション場面を想定しています。
- 生徒の実態に応じて、必要な項目を選び、授業改善に役立ててください。

中学校 知的障害特別支援学級 作業学習 コミュニケーションチェックシート

生徒の姿	具体的な発言・行動	コミュニケーションを図るための手だて	チェック
あいさつができる。 返事ができる。	おはようございます。 おつかれさまでした。 失礼します。 はい。分かりました。 ありがとうございます。	あいさつの基本（声量・視線・姿勢・表情・距離）を学ぶ時間を設定し練習する。	
		場に合わせた声の大きさが分かるように、イラストやグラフを使って視覚的に表し提示する。	
		視線・姿勢・表情をイラストで表し提示する。	
		あいさつ・返事をする際のポイントを分かりやすく示した絵カードを活用する。 （個々の課題に応じて絵カードを変えながら教示する。）	
		作業に必要なあいさつの言葉を作業室に掲示しておき、生徒がいつでも確認できるようにする。	
報告ができる。	終わりました。 確認お願いします。 次は何をしたらよいですか。	作業工程を短く区切り、報告する機会を増やす。	
		報告するタイミングを示す。（タイミングは個々の生徒が分かりやすい方法で知らせる） ・タイマーを使い、時間になったら報告する。 ・ベルを鳴らし、音が鳴ったら報告する。 ・作業量を示し、全部終わったら報告する。	
		報告する相手が誰であるかを示す。 ・生徒の班長→班の担当教員→全体を統括する教員等、実際の職場に近い組織をつくる。 ・連絡系統を決めて、報告する順番を明確にする。	
		報告の話型が書いてあるカードを活用する。 （慣れてきたらカードを見ないとも言えるようにする。）	
		報告の仕方についてモデルを示す。（モデルとなる上級生や教員を班に配置する。）	
		報告に必要な言葉を作業室に掲示しておき、生徒がいつでも確認できるようにする。	
分からないときに、 質問ができる。	～について、教えてください。	質問や相談の仕方を学ぶ時間を設定し練習する。	
		質問や相談の話型が書いてあるカードを活用する。 （慣れてきたらカードを見ないとも言えるようにする。）	
		生徒が困る場面、質問する場面を意図的につくる。	
		生徒が困っている姿を見たときに、質問を引き出してから、教える。	
間違えたときに、 相談ができる。	間違えてしまいました。 どうしたらよいですか。	見本を用意する。見本と比べて、自ら間違いに気が付いて報告できるようにする。	
		相談する相手が誰であるか明確に示す。	
		相談の話型が書いてあるカードを活用する。 （慣れてきたらカードを見ないとも言えるようにする。）	
注意されたときや、 間違えたときに、謝 ることができる。	すみませんでした。 気を付けます。	謝ることの意味や仕方を学ぶ時間を設定し練習する。	
		謝り方（姿勢・表情等）についてモデルを示す。（モデルになる上級生や教員を班に配置する。）	
集団の中で他者と協 力し役割を遂行でき る。	生徒同士で協力しながら 作業する。	作業工程を細分化し、分担して協働しながら作業できるようにする。 ・生徒が主体的に行動できる配置にし、活動動線を整える。 ・役割分担の仕事内容や手順を示した指示書を活用する。	
協力しながら課題解 決する。	困ったときに、友達同士で 話し合い、教え合いながら 解決する。	作業を進める中で、課題解決する場面を意図的に設定する。	
		作業のはじめに、役割分担を生徒同士で話し合って決める。 （始めは、教師が助言をするが、徐々に生徒同士で決められるようにする。）	
		作業の途中で中間報告を設定し、進捗状況を確認し、本時の目標を達成するための改善策を話し合う。	
		作業終了後に反省会を設定し、班の良い点や改善点について話し合う。	
	生徒同士で話し合いをす る。	班に積極的に話ができる生徒を配置する。	
		話し合う時のルールを決めて、作業室に掲示しておき、生徒がいつでも確認できるようにする。 司会進行の流れと話型を示したカードを用意し、カードを見ながら司会進行できるようにする。 事前に自分の考えを書くことで話すことができる生徒には、付箋等を用いて伝えることができるようにする。	